愛媛県

愛媛果研ニュース

No.38　令和2年9月

ドローンによるかんきつ防除

平成 30 年７月の西日本豪雨は県下全域に甚大な被害を与えました。現在、生産者をはじめとした関係者の皆様の御努力により復旧が急ピッチで進められています。併せて研究面でも、復旧園地での高品質かんきつ生産技術の確立に取り組んでいるところです。このような中、本年７月３日から始まりました梅雨の長雨では、12 日間連続して降雨を記録し、みかん研究所で 457㎜と宇和島の７月１か月分の２倍に迫る雨量となりました。災害に合われた方にお見舞い申し上げます。数十年に一度といわれる災害が各地で頻繁に起こるようになり、広域的で根本的な対策から地道で局地的な対策に至るまでの総合的な備えを急ぐ必要性を痛感する次第です。

本年４月、農水省より「果樹農業の振興を図るための基本方針」が示されました。これまでの供給過剰基調に対応した生産抑制施策が改められ、低下した供給力を回復し、高品質で商品価値が高い国産果樹の生産基盤を強化するための施策に転換するもので、果樹生産に携わる者として一層やりがいがある時代に入りました。

一方、全世界に感染が拡大しております新型コロナウイルスに関しましては、生命・経済に大きな影響を及ぼしており、果樹産業においても例外ではありません。今後ウイルスに関する知識を正確に持ったうえで、正しく恐れ、対策を講じていく必要があります。

果研ニュース No.38 のテーマは、①「甘平」果実の硬化症対策、②ドローンによるかんきつ防除の実用化に向けた取り組み、③育種に利用可能な多胚性カンキツにおける交雑胚の大きさについて取り上げました。食味・食感ともに優れた「甘平」の安定生産に向けた技術、スマート農業による魅力ある農業の推進、交雑育種の壁となる多胚性を克服する試験の成果をご紹介しますので、一読のうえ参考にしていただければと思います。

果樹研究センター　みかん研究所長　二宮泰造